

四半期報告書

(第98期第1四半期)

自 2021年1月1日

至 2021年3月31日

六甲バター株式会社

(E00337)

表紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

- | | |
|---------------|---|
| 1 主要な経営指標等の推移 | 1 |
| 2 事業の内容 | 1 |

第2 事業の状況

- | | |
|------------------------------------|---|
| 1 事業等のリスク | 2 |
| 2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 | 2 |
| 3 経営上の重要な契約等 | 3 |

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

- | | |
|-------------------------------|---|
| (1) 株式の総数等 | 4 |
| (2) 新株予約権等の状況 | 4 |
| (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 | 4 |
| (4) 発行済株式総数、資本金等の推移 | 4 |
| (5) 大株主の状況 | 4 |
| (6) 議決権の状況 | 5 |

- | | |
|---------|---|
| 2 役員の状況 | 5 |
|---------|---|

第4 経理の状況

1 四半期財務諸表

- | | |
|--------------|----|
| (1) 四半期貸借対照表 | 7 |
| (2) 四半期損益計算書 | 10 |

- | | |
|-------|----|
| 2 その他 | 12 |
|-------|----|

第二部 提出会社の保証会社等の情報

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2021年5月13日
【四半期会計期間】	第98期第1四半期（自 2021年1月1日 至 2021年3月31日）
【会社名】	六甲バター株式会社
【英訳名】	ROKKO BUTTER CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 塚本 浩康
【本店の所在の場所】	神戸市中央区坂口通一丁目3番13号
【電話番号】	(078) 231-4681（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役活性本部長 丸山 泰次
【最寄りの連絡場所】	神戸市中央区坂口通一丁目3番13号
【電話番号】	(078) 231-4681（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役活性本部長 丸山 泰次
【縦覧に供する場所】	六甲バター株式会社東京支店 （東京都中央区日本橋蛸殻町一丁目39番5号 水天宮北辰ビル） 六甲バター株式会社大阪支店 （大阪市淀川区宮原二丁目14番14号 新大阪グランドビル） 六甲バター株式会社名古屋支店 （名古屋市中区大須四丁目1番70号 TANAKA名古屋ビル） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第97期 第1四半期 累計期間	第98期 第1四半期 累計期間	第97期
会計期間	自2020年 1月1日 至2020年 3月31日	自2021年 1月1日 至2021年 3月31日	自2020年 1月1日 至2020年 12月31日
売上高 (百万円)	12,779	13,010	54,948
経常利益 (百万円)	324	410	1,667
四半期(当期)純利益 (百万円)	193	813	956
持分法を適用した場合の投資利益 (百万円)	—	—	—
資本金 (百万円)	2,843	2,843	2,843
発行済株式総数 (株)	21,452,125	21,452,125	21,452,125
純資産額 (百万円)	26,890	28,245	27,744
総資産額 (百万円)	55,810	56,422	56,995
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	9.92	41.75	49.11
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	—	—	20.00
自己資本比率 (%)	48.2	50.1	48.7

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 持分法を適用した場合の投資利益については、利益基準及び利益剰余金基準からみて重要性の乏しい関連会社のみであるため記載しておりません。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、関係会社にも異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大による当社事業への影響は現時点において軽微であります。しかしながら、今後の事業に対する影響につきましては注視していく必要があるものと考えております。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、政府が新型コロナウイルス感染再拡大の影響から1月に緊急事態宣言を一部地域において再び発出し、企業活動および個人消費が低迷したことから景気の回復は厳しい状況となりました。さらに、新型コロナウイルス感染症の収束の兆しが見えないことに加えて、企業業績の悪化に伴う雇用・所得環境の悪化が懸念されるなど依然として先行きは不透明感が強まる状況となりました。

食品業界ならびに当社の主力分野であるチーズ業界におきましては、新型コロナウイルスの感染再拡大の影響により外食産業向け需要が低調であったものの、家庭内需要は好調に推移いたしました。

このような市場環境のもと、当社といたしましては、新型コロナウイルスの感染防止の観点から在宅勤務および時差勤務など対策を実施いたしました。さらに、食品メーカーとして最も重要な食の安全・安心の確保を最重点とし、品質管理体制の強化、経費の削減、および生産能力の増強と生産効率の向上を目指し、基幹工場となる神戸工場の全生産ラインの安定稼働に引き続き努めました。今春の新製品としては、チーズ部門において「おいしく健康プラスベビーチーズ チーズDEたんぱく質コラーゲンペプチド入り」、「おうちDE居酒屋ベビーチーズ燻製カマンベール味」、「おうちDE居酒屋ベビーチーズ焦がしにんにく&ねぎ油風味」、「おうちDE居酒屋ベビーチーズカルボナーラ味」、「ハローキティかたぬきチーズDHA・EPA入り」、「ミッキー&フレンズかたぬきチーズDHA・EPA入り」、「くまのプーさんかたぬきチーズDHA・EPA入り」、ナッツ部門において「ビールに合うチーズスナックミックス」、「カレー豆ミックス6袋」を発売いたしました。

その結果、当第1四半期累計期間の財政状態及び経営成績は、以下のとおりとなりました。

a. 財政状態

(資産)

当第1四半期会計期間末の資産は、現金及び預金が994百万円、長期未収入金が700百万円、繰延税金資産が295百万円増加した一方で、売掛金が1,829百万円、有形固定資産が575百万円、商品及び製品が169百万円減少したこと等により、前事業年度末と比較し573百万円減少し、56,422百万円となりました。

(負債)

当第1四半期会計期間末の負債は、未払法人税等が539百万円増加した一方で、設備関係電子記録債務が756百万円、未払金が494百万円、買掛金が199百万円減少したこと等により、前事業年度末と比較し1,073百万円減少し、28,177百万円となりました。

(純資産)

当第1四半期会計期間末の純資産は、配当金の支払いにより利益剰余金が389百万円減少した一方で、四半期純利益を計上したこと等により、前事業年度末と比較し500百万円増加し、28,245百万円となりました。この結果、自己資本比率は前事業年度末の48.7%から50.1%となりました。

b. 経営成績

当第1四半期累計期間の売上高は13,010百万円となり、前年同四半期累計期間と比較し230百万円増加いたしました。これは主に、業務用チーズ製品の販売が減少した一方で、チョコレート製品と家庭用チーズ製品の販売が伸長したことによります。

経常利益につきましては、前年同四半期累計期間と比較し86百万円増加し、410百万円となりました。これは主に、前年同四半期累計期間に生じた為替差損5百万円が、当第1四半期累計期間においては為替差益48百万円に転じたことに加え、遊休資産費用が27百万円減少したこと等によります。

四半期純利益につきましては、神戸工場の建設に伴う産業立地促進補助事業補助金を特別利益に計上したことから、前年同四半期累計期間と比較し620百万円増加し、813百万円となりました。

(2) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期累計期間において、当社の優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期累計期間の研究開発費の総額は46百万円であります。

なお、当第1四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

1) 資金需要

設備投資、運転資金及び利息の支払い並びに配当金の支払いに資金を充当しております。

2) 資金の源泉

必要な資金は、主として営業活動によるキャッシュ・フローにより調達しておりますが、一部は銀行借入により調達しております。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (2021年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2021年5月13日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	21,452,125	21,452,125	(株)東京証券取引所 (市場第一部)	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	21,452,125	21,452,125	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
2021年1月1日～ 2021年3月31日	—	21,452,125	—	2,843,203	—	800,000

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2020年12月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

2020年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 1,968,200	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式（その他）	普通株式 19,461,500	194,615	同上
単元未満株式	普通株式 22,425	—	—
発行済株式総数	21,452,125	—	—
総株主の議決権	—	194,615	—

（注）「完全議決権株式（その他）」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が2,000株（議決権の数20個）含まれております。

② 【自己株式等】

2020年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
（自己保有株式） 六甲バター株式会社	神戸市中央区坂口 通一丁目3番13号	1,968,200	—	1,968,200	9.17
計	—	1,968,200	—	1,968,200	9.17

（注）上記のほか株主名簿上は当社名義になっておりますが、実質的に所有していない株式2,000株が（議決権の数20個）あります。

なお、当該株式数は、前記「発行済株式」の「完全議決権株式（その他）」の欄に含めております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間（2021年1月1日から2021年3月31日まで）及び第1四半期累計期間（2021年1月1日から2021年3月31日まで）に係る四半期財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年12月31日)	当第1四半期会計期間 (2021年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,640,930	8,635,071
受取手形	2,422	1,001
電子記録債権	245,748	217,938
売掛金	12,586,692	10,757,476
商品及び製品	2,648,492	2,479,157
仕掛品	105,978	106,630
原材料	1,804,991	1,734,085
前払費用	114,541	120,718
未収入金	103,848	124,481
短期貸付金	1,312	1,196
その他	46,795	83,442
貸倒引当金	△2,400	△1,600
流動資産合計	25,299,353	24,259,601
固定資産		
有形固定資産		
建物	17,600,758	17,629,063
減価償却累計額	△5,103,635	△5,293,479
建物（純額）	12,497,123	12,335,584
構築物	896,324	886,390
減価償却累計額	△462,160	△465,506
構築物（純額）	434,163	420,884
機械及び装置	21,450,376	21,516,210
減価償却累計額	△12,714,529	△13,167,847
機械及び装置（純額）	8,735,846	8,348,363
車両運搬具	93,598	93,340
減価償却累計額	△84,629	△85,419
車両運搬具（純額）	8,969	7,921
工具、器具及び備品	634,368	637,344
減価償却累計額	△490,697	△501,868
工具、器具及び備品（純額）	143,671	135,475
土地	3,710,268	3,705,309
建設仮勘定	1,267,945	1,268,934
有形固定資産合計	26,797,989	26,222,472
無形固定資産		
電話加入権	11,091	11,091
商標権	16,582	16,053
諸施設利用権	10,262	10,070
ソフトウェア	170,100	152,829
ソフトウェア仮勘定	9,778	9,778
無形固定資産合計	217,816	199,823

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年12月31日)	当第1四半期会計期間 (2021年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	1,324,526	1,426,078
関係会社株式	1,326,310	1,326,310
従業員に対する長期貸付金	1,283	1,128
破産更生債権等	7,647	7,647
長期前払費用	5,239	3,654
長期未収入金	300,000	1,000,200
前払年金費用	954,462	919,255
繰延税金資産	668,381	964,057
その他	113,962	113,657
貸倒引当金	△21,242	△21,242
投資その他の資産合計	4,680,571	5,740,747
固定資産合計	31,696,377	32,163,043
資産合計	56,995,731	56,422,644
負債の部		
流動負債		
電子記録債務	80,890	41,287
買掛金	4,476,780	4,276,903
短期借入金	※1,※2 16,000,000	※1,※2 16,000,000
リース債務	14,772	14,772
未払金	755,756	261,036
未払法人税等	114,423	654,137
未払消費税等	116,188	198,275
未払費用	4,933,162	4,756,855
預り金	151,691	77,641
設備関係電子記録債務	886,803	129,925
株主優待引当金	7,200	—
役員賞与引当金	40,000	—
その他	7,685	38,988
流動負債合計	27,585,356	26,449,823
固定負債		
リース債務	184,640	180,947
退職給付引当金	1,209,230	1,275,104
長期未払金	257,577	257,577
その他	14,053	14,053
固定負債合計	1,665,501	1,727,682
負債合計	29,250,858	28,177,506

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年12月31日)	当第1四半期会計期間 (2021年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,843,203	2,843,203
資本剰余金		
資本準備金	800,000	800,000
その他資本剰余金	1,722,860	1,722,860
資本剰余金合計	2,522,860	2,522,860
利益剰余金		
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	384,567	761,936
別途積立金	19,100,000	19,100,000
繰越利益剰余金	4,586,830	4,633,295
利益剰余金合計	24,071,397	24,495,231
自己株式	△2,316,242	△2,316,343
株主資本合計	27,121,219	27,544,952
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	623,859	700,185
繰延ヘッジ損益	△205	—
評価・換算差額等合計	623,653	700,185
純資産合計	27,744,873	28,245,138
負債純資産合計	56,995,731	56,422,644

(2) 【四半期損益計算書】

【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)
売上高	12,779,776	13,010,094
売上原価	7,544,903	7,740,114
売上総利益	5,234,872	5,269,979
販売費及び一般管理費	4,826,008	4,871,421
営業利益	408,863	398,558
営業外収益		
受取利息	237	71
受取配当金	243	24,926
為替差益	—	48,359
収入賃貸料	6,150	366
資材売却益	1,283	739
還付加算金	5,941	—
その他	1,674	2,538
営業外収益合計	15,531	77,001
営業外費用		
支払利息	9,888	9,864
為替差損	5,974	—
賃貸資産費用	834	833
遊休資産費用	62,103	34,447
関係会社支援費用	17,926	19,403
その他	3,224	88
営業外費用合計	99,951	64,637
経常利益	324,444	410,923
特別利益		
固定資産売却益	—	105,848
補助金収入	—	※ 719,700
特別利益合計	—	825,548
特別損失		
固定資産廃棄損	7,514	160
減損損失	16,134	1,820
工場移転費用	41,376	91,149
特別損失合計	65,024	93,129
税引前四半期純利益	259,419	1,143,342
法人税、住民税及び事業税	462,000	650,000
法人税等調整額	△395,882	△320,169
法人税等合計	66,117	329,830
四半期純利益	193,302	813,511

【注記事項】

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の影響について、今後の広がり方や収束時期等を予測することは困難なことから、2021年12月期の一定期間にわたり当該影響が継続するとの仮定を置き、会計上の見積りを行っております。この場合においては、当事業年度の財政状態及び経営成績に与える影響は軽微であると考えております。

ただし、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化した場合には、将来の財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(四半期貸借対照表関係)

※1 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行とタームアウトオプション付コミットメントライン契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高は以下のとおりであります。

	前事業年度 (2020年12月31日)	当第1四半期会計期間 (2021年3月31日)
コミットメントラインの総額	9,000,000千円	9,000,000千円
借入実行残高	6,000,000	6,000,000
差引額	3,000,000	3,000,000

なお、タームアウトオプション付コミットメントライン契約につきましては、以下の財務制限条項が付されており、以下の条項に抵触した場合は期限の利益を喪失し、当該借入金を返済する義務を負っております。

① 各事業年度末日における単体の貸借対照表における純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期の末日又は2018年12月に終了する決算期の末日における純資産の部の金額のいずれか大きい方の70%の金額以上に維持すること。

※2 当社は、神戸工場建設のため取引銀行4行との間で、シンジケート方式によるタームローン契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高は以下のとおりであります。

	前事業年度 (2020年12月31日)	当第1四半期会計期間 (2021年3月31日)
タームローン契約の総額	10,000,000千円	10,000,000千円
借入実行残高	10,000,000	10,000,000
差引額	—	—

なお、シンジケート方式によるタームローン契約につきましては、以下の財務制限条項が付されており、以下の条項に抵触した場合は期限の利益を喪失し、当該借入金を返済する義務を負っております。

① 各事業年度末日における単体の貸借対照表における純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期の末日又は2017年12月に終了する決算期の末日における純資産の部の金額のいずれか大きい方の70%の金額以上に維持すること。

(四半期損益計算書関係)

※ 補助金収入

当第1四半期累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)

神戸工場の建設に伴う産業立地促進補助事業補助金であります。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)
減価償却費	774,858千円	686,815千円

(株主資本等関係)

I 前第1四半期累計期間(自2020年1月1日至2020年3月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年3月26日 定時株主総会	普通株式	389,679	20.0	2019年12月31日	2020年3月27日	利益剰余金

II 当第1四半期累計期間(自2021年1月1日至2021年3月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年3月25日 定時株主総会	普通株式	389,678	20.0	2020年12月31日	2021年3月26日	利益剰余金

(持分法損益等)

前第1四半期累計期間、当第1四半期累計期間ともに利益基準及び利益剰余金基準からみて重要性の乏しい関連会社のみであるため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自2020年1月1日至2020年3月31日)及び当第1四半期累計期間(自2021年1月1日至2021年3月31日)

当社の事業は、チーズ類、チョコレート類及びナッツ類等の食料品の製造・販売業であり、単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自2020年1月1日 至2020年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自2021年1月1日 至2021年3月31日)
1株当たり四半期純利益金額	9円92銭	41円75銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	193,302	813,511
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	193,302	813,511
普通株式の期中平均株式数(株)	19,483,999	19,483,873

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年5月13日

六甲バター株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山本 秀男 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 上田 美穂 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている六甲バター株式会社の2021年1月1日から2021年12月31日までの第98期事業年度の第1四半期会計期間（2021年1月1日から2021年3月31日まで）及び第1四半期累計期間（2021年1月1日から2021年3月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、六甲バター株式会社の2021年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。